

【オーストラリア：メルボルン 小・中・高等学校】

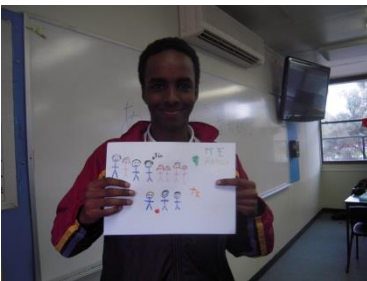
東日本大震災被災地の中学生6名を引率し、メルボルンの学校で交流事業を行った。その中で小学校、中学校、高校を訪問し、「大切なものはなんですか」の授業を実施した。

- ・大切だと考えるものについては、高校生は「家族」「友達」、中学生は「家族」「愛」「ペット」、小学生は「家族」「友達」「チョコレート」「犬」などが多かった。バラエティーに富んだものが数多く出され、楽しい授業になった。
- ・それぞれの大切なものの絵をシェアし合った後、岩手の中学生が自分の大切なもののエピソードを話した。震災で失ってしまったが、今でも大切に思っているものや、震災後に初めて大切だと気付いたものについてのエピソードを聞いて、涙ぐむ生徒も見られた。
- ・授業終了後、震災で叔母を亡くした陸前高田の女子中学生のそばに生徒が集まり、泣きながら抱きしめたり、言葉をかけたりする姿が見られた。「あなたの大切なストーリーをシェアしてくれてありがとう。」と言って女子中学生を励ます姿が印象的だった。

* 生徒の感想（抜粋） * …原文のまま記載

家族を大切に思っている人が多く、国が違ってもみんな思っていることは同じなんだと思った。これからも大切なものに感謝しながら、一日一日を大切に生活していきたいと思った。 T・I

I thought this lesson was very important and interesting. It makes me very sad to think that they lost some of their family members in the devastation because I know how important family is. I really enjoyed this lesson.
Thank you. K



今日の授業で、大切なものはこれからももっともっと大切にしなければ、と思うことができた。もっと世界中のみんなのことが知りたいし、大切にしたいと思った。 M・K



It was interesting hearing about different experiences and what they thought was important from every one. T

